

日本キャリア教育学会 研究推進委員会・中部地区部会合同企画

第1回：大学生・大学院生による研究交流フォーラム実施報告

主催 研究推進委員会 中部地区部会 上越教育大学キャリア教育研究会

2022年02月13日（日）13:30～16:00、オンラインによる第1回：大学生・大学院生による研究交流フォーラムが開催されました。今回のテーマは、「これからのキャリア教育研究を拓く知の交流」で、43名（話題提供者・コーディネーター含）の方にご参加いただきました。

フォーラムの冒頭では、研究推進委員長：山田智之（上越教育大学）が企画趣旨説明を行い、日本キャリア教育学会のホームページに掲載されている研究推進委員会：連載「研究をする」に前研究推進委員長の浦上昌則（南山大学）先生が書かれた第1号「仲間になる」を紹介し、本フォーラムを通じて、よき仲間をつくって研究を深めてほしいと強調しました。

続いて、加藤 賢さん（上越教育大学 学校教育研究科）より「級友に抱く評価懸念と登校回避感情および、所属集団の構造との関連」、小坂井菜衣さん（愛知教育大学 教育学研究科）より「自分の行動を振り返り、次に生かすことができる児童の育成—キャリア・パスポートにつながる実践を通して」、文 聖現さん（大阪教育大学 教育学研究科）より「理学療法士養成校の臨床実習生を対象とした内発的動機づけに関する調査」、斉藤光平さん・沼田大輝さん（上越教育大学 学校教育研究科）より「キャリア教育を視点とした教育的支援」について、話題提供をしていただきました。

その後のトークセッションは、加藤 賢さん、文 聖現さんを囲んでトークを行うAグループと、小坂井菜衣さん、斉藤光平さん・沼田大輝さんを囲んでトークを行うBグループに分かれて活発な論議が行われました。そして、シェアリングセッションにおいて、各グループのコーディネーター：豊田隼さん、笹山雄大さんからトーク内容が報告され、情報を共有しました。

最後に、本フォーラムの企画に多大な協力をいただいた安達智子（大阪教育大学）先生、副会長：高綱睦美（愛知教育大学）先生、会長：下村英雄（労働政策研究・研修機構）先生から閉会の挨拶をいただき、第1回：大学生・大学院生による研究交流フォーラムを盛会のうちに終了しました。

参加者のアンケートの感想には、「学校現場で働くようになり、個別具体的な事例に対しては、考えたり行動したりすることがとても多くなりました。一方で、一步引いて客観的に全体を俯瞰してみるとどういう傾向にあるのかを考える機会はだいぶ減ったと思います。そういった意味で、久しぶりに研究発表が聞けて、考えるきっかけをもらえたと感じました。」「自分と同じ立場で同じ領域を研究する大学院生のお話を拝聴でき、大変大きな学びを得たとともに、ニッチな領域で活動する自分への励み、激励ともなりました。教育大学という強みを生かし、現場に赴いて実践研究を行えることは大変貴重かつ重要であり、素晴らし

い研究であると感じました。自分もいつかはこのような場で発表することができるよう精進しなければと痛感した次第です。」「学校現場との連携の視点からの研究で、校内研究の方向性を考えることができた。今後、大学との連携、あるいは学校で、気軽に学会発表に参加し、学校現場と大学、学会におけるキャリア教育の研究や認識、共通理解が図られることを願います。」「発表者として初の発表でしたが非常に緊張しました。この貴重な機会で自分の経験値にできたことは嬉しかったです。今後の発表に向けてより考え方を深めたいと思いました。またほかの発表者の発表を聞き、より頑張りたいと感じました。」「学際的な研究から実践的な研究まで、幅広い分野から発表、議論がなされ、とても有意義な機会でした。特にグループセッションでは、量的な研究結果への言及、理論的な側面からの新たな示唆など、研究畑の方のお話と実践を知る方のお話を両側面から聞くことができました。」「統計による分析、振り返りシート、問いの作成、自己決定の大切さ、協働など素晴らしい取組みを知ることができました。」「『理学療法士』として臨床実習生へのアプローチの研究に期待しています。実際には、短期間で成果が出ないことが多い機能訓練や機能回復、年単位で薄紙を重ねていくように機能回復していく人体の不思議、内なる治癒力、先々の希望にしてどうか素晴らしい理学療法士養成をなさってください。」「下村会長が仰っていたように、学生さんや若いみなさまのフォーラムでしたのに、つついのめり込んでしまいました。とても素晴らしい時間でした。」「大学院生の皆様のハイレベルな研究報告、刺激的でした。『キャリア教育』という共通性はあるものの、様々な領域で多角的な視点から研究がなされており、非常に興味深かった。質疑応答についても活発的に展開され、有意義であった。」「指導学生が様々な角度からご意見をいただくことが出来て指導教員として得るところが多かったです。」「今回のフォーラムは、キャリア教育の学校現場と大学等の研究機関との間を一層よりよくしていくためには、本当に意義深いものであるものと強く感じました。特に、その役割を教職大学院や大学院修士課程の院生の皆様、ご指導されております大学の先生方が本当に一体となり、レベルの高い素晴らしい研究成果を出されていることを改めて痛感いたしました。特に、今回は小学校のキャリア教育についての先進的な取り組みと研究成果が顕著に見られていたと強く感じました。」「大変有意義でした。内容的にみなさんの懸命な努力が感じられました。特に加藤先生の御研究は、不登校の背景にある構造をよく分析できていたと思います。スクールカースト研究の諸知見ともほぼ一致する内容が見られました。キャリア教育は自己の在り方に焦点化する教育でもあります。キャリア教育と教育相談領域との関連は深く、私自身も仮設段階ではありますが多々考察しているところです。小学校段階のキャリア・パスポートについて研究された小坂井さんの御発表はこれまでの知見を超えるものであったと思います。なかなか面白い御発表に感銘しました。」とあり、今回のフォーラムに高い評価をいただきました。

また、今後のフォーラムへの希望として「意見交換、交流の機会をもう少しいただければと感じました。院生同士のみならず、研究されている先生方とも交流の機会が少ないため、研究の話題だけでなく、自身のキャリアのお話などもお聞かせ願えるような場を設けてい

ただけですと幸いです。」「学生さんや院生さんがキャリア教育に対する疑問、質問を語る会はいかがでしょう?」「今後もぜひ開催いただけると嬉しいです。オンラインでの開催で難しい面も多くあると思いますが、発表後の交流をより活性化させるためには5人程度のグループにすると良いかもしれないと思いました。」「学部生の発表など、キャリア教育の橋を超えた様々な研究をお聞きしたい。」「大学生・大学院生による研究交流フォーラムは今後とも開催されることを願っております。その際、学部生や院生のみなさまのご意見をたくさんお聴きしたいです。学生さんが、発表内容を通して、ご自身の課題や困難に思っていることとお話しいただくといいですね。十分にディスカッションする時間がありますようにと期待しています。大学生・大学院生が『参加してよかった』『研究で行き詰っていたことや視野が開けた』などと感じていただきたいです。」「研究大会とはまた違ったこういう交流の場が年に何度かあるとよいなと思いました。学部生、院生同士の質疑応答の時間を設けて頂けると、より交流が深まると思います。」「発表ではなく、共同研究やコラボレーションの機会があると良いなと思いました。」「今後も若い研究者、実践者のみなさんの研究に触れる機会があるとうれしいです。純然とした発想は時として時代を動かす可能性があります。また、教職大学院など現職の先生方の御研究は実践段階でのさまざまな困り感をもとにこれを解決するための手立てを追究するものでもあるでしょう。その実感こそキャリア教育研究に求められるものだと思います。」など、今後のフォーラムを検討する上で、貴重なご意見をいただきました。

ご発表並びにご参集いただきました皆様に深く感謝申し上げます。

山田智之(研究推進委員長・上越教育大学)